

Q&A（よくある質問と回答）

Q 子どもの自主性を尊重できる遊びは具体的にどのような遊びですか？

こどもの自主性を尊重できる遊びはたくさんあります。その一つの例が砂場遊びで、砂場遊びはこどもたちにとって極めて重要だと考えています。さらさらとした砂や、水を含んだ砂の感触の違いを味わったり、シャベルで全身を使って掘り起こし、「山」「トンネル」を作ったり、時には水を流し、大きな「川」「島」が出来たり…。そうかと思えば、型抜きや調理器具を使い、「レストラン」「キッチン」に早変わり。一人で黙々と、まるで小さな研究者のようにじっくり楽しむ姿もあれば、友達とアイディアを出し合い協力しながら楽しむ姿もあり。こうしたこどもたちと一緒に大人も楽しみ、時には手助けもしますが、あまり話しかけ過ぎたり、指示し過ぎたりしないようにしています。こどもたちの様々な発見・驚き・試行錯誤・創造といった、大きな楽しみが砂場には詰まっているのです。

Q 幼稚園で勉強を教えてくださいませんか

「遊びこそが学び」

くさばな幼稚園では「自由保育」を開園当初から大切にしています。ペーパー（机上の学び）ではなく、「遊びこそが学び」と考えています。

もちろん、時には季節の製作などいわゆる「一斉保育」を行う場面もありますが、こどもたちの遊びの中での「知りたい」「やってみたい」という自発的な気持ちを大切に、直接触れて感じる体験をしたり試行錯誤したり、同年代の友達とやりとりをしたりすることが、やがてこどもの主体性・自尊心・忍耐力・社会的スキル・他者との関係性を構築する能力などを伸ばすことができると考えています。近年ではこうした単純に「読み・書き・計算」の数値では測れない、「非認知能力」の大切さが世界中で語られるようになってきました。

幼児期はまさに人間としての土壌、根元の部分であり、いかに豊かな経験をするかがとても重要です。

まるで時間割のように「〇〇の時間」「△△の時間」と大人の都合で活動を区切るのではなく、また「学び」の隙間時間が「遊び」なのではなく、「遊び」こそが「学び」そのもののなのです。

そのしっかりとした土壌があってこそ、小学校以降のいわゆる教科的学びを支える力につながると考えています。

Q どのような給食でしょうか？

「すべて園内で調理する自家製給食です」

内容は、主食、副菜、汁もの、デザートなどの組み合わせで、主食は米飯、パンでバランスを考え、食文化に配慮したものとなるよう、取りあわせています。盛りつけもそれぞれ食器を用意し、家庭での食事と異ならないよう、努めています。献立によって、材料を細かく刻んだりして、こどもにも食べやすいよう、調理しています。なお、献立は栄養士が作成しており、1食につき平均熱量としては約400キロカロリー、たんぱく質15グラムを基準としています。

【それぞれ食器を用意する意味】

最近の日本の家庭では、いわゆる「ワンプレート式」や「お弁当箱式」で食事をする機会が増え、その方式を採用する幼稚園・保育園も多くあります。家庭においては保護者が洗い物を減らせますし、保育現場においては盛付など、管理しやすいというメリットもあります。しかし一方で、大きくなっても食器が正しく持てなかったり、「犬食い」をする子どもが増えているとされています。日本には古来から、器・茶碗・湯呑などをはじめとする世界に誇るべき焼き物の文化があります。日本で生活し、育っていくこどもたちにも、これらに触れ、正しく扱うことを日々の食事の場面から学んで欲しいと思っています。

・熱い物を入れれば器が温まり、そこから伝わるぬくもり。

・きちんと手を添えなければ、汁物を上手く飲めないこと。

・食べたい物の食器が遠くにあれば、他の食器の位置を考えながら手をのびし、取ること。

このように、大それた「マナー教室」など開かずとも、一度の食事から学べることは実にたくさんあるのです。たかが一食。されど、一食。ワンプレート式を否定するつもりはありませんが、食事楽しい学びの場のひとつであると考えからこそ、それぞれ食器を用意して、食器を持って食べられるように準備をしています。先生や友達と一緒に食事をするを通して、自然と食器を持つ習慣ができるようになるこども達の成長には驚かされます。

Q 保護者会による保護者参加会議や行事の頻度は？

令和5年度までは保護者会を組織しておりましたが、令和6年度からくさばな幼稚園では保護者会を組織していません。

